

参加者の熱意ある連携で実用的なモノの開発・普及促進を図る手段と人材育成の試み

Three Attempts for human resource development and methods for practical assistive products

○ 小野栄一（国リハ 研究所）

Eiichi ONO, Research Institute, National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities (NRCD).

Abstract: This paper shows three attempts. First one is “Assistive Technology Café”. Second one is “the NRCD Fashion Event”. Third one is “Needs & Idea Forum”. Those are carried out by people of various occupations in collaborating with enthusiasm. Schedule adjustment, communication and collaboration among persons concerned are key issues.

Key Words: Human Resource Development, Assistive Products, Collaboration

1. はじめに

実用的で喜ばれる支援機器の研究・開発・普及にかかわる活動は、どのような配慮やサポートの仕方が適切であるかを学ぶ機会にもなる。筆者は立場上、実用的で普及しやすい支援機器の研究・開発を促進するためにどうすべきかと考える機会があり、まだ継続途中の段階であるが、具体的に行った三つの試みを開始時期の時系列順に紹介し、それらを試みて学んだ一端を述べる。

一つ目は、福祉工学カフェである。これは筆者が厚生労働省の福祉工学専門官（初代）の時に始めた情報交換の場である。国立障害者リハビリテーションセンター（国リハと以後略記する）の研究所と国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と共催で開催しており、主に NEDO 分室（千代田区霞ヶ関）の会議室で行う。

二つ目は国リハコレクションである。これは、国リハ主催で、国リハ（埼玉県所沢市）を会場としてファッションショーや展示などを行う。

三つ目は、ニーズ&アイデアフォーラムである。これは、複数の学校（大学、高専、専門学校）の協力のもと、開催しており、会場は固定していない。

以下に順に概要を説明する。

2. 三つの試み

2.1 福祉工学カフェ

ユーザに支援機器の技術や開発状況を知っていただき、ユーザと支援機器の研究・開発者及び関係者が意見交換を行うこと等により、より良い支援機器開発につながる機会を増やすことを目的として 2010 年度より開催している。

そのため、福祉工学カフェにおいてはユーザと開発者、支援機器にご関心のある方が一堂に会し、身近なニーズから支援機器開発のあるべき姿まで、幅広い話題について議論を深めて、実用性の高い支援機器開発に向けた一助としている。今まで第 14 回を除き、必ず、支援機器ユーザ側の当事者が発表する側として参加し、ここ数年は、企画提案と司会も行っていたりやり方で進めている。

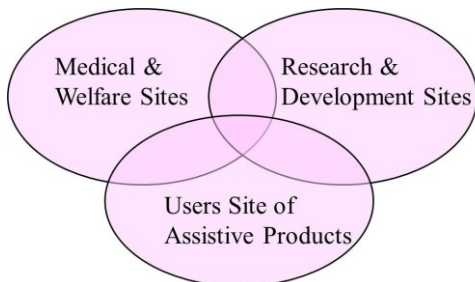


Fig.1 Cross-cooperation with a wide field of view

今までに聴覚障害、視覚障害、発達障害のある方々に企画していただき開催したが、いずれも、大変好評であった。視覚障害のある方に企画（第 16 回）をお願いした際は、サイトワールド（視覚障害者向け総合イベント）の会場内での開催をご提案いただき実施した。その結果、会場に入りきれない来場者がいた（来場者数 72 名）。

2.2 国リハコレクション

障害に配慮された快適なおしゃれな衣料は障害のある人の衣生活の向上のみでなく、生活の質の向上、社会参加促進などにつながる。そのため、①それらの衣料について、どのような課題があるかを知ってもらい、②着たい服がどこでも手に入り、③おしゃれできる環境がより促進されることを目指し、ユーザ側の課題・情報をモノ作り側へ橋渡しをする試みの手段として国リハコレクションを 2011 年度より開催し、ウェブサイトなどで情報提供をしている。

毎回、おしゃれをキーワードに工夫をこらしつつ開催している。2015 年度は、展示に加え、試着コーナーを儲けた。出展機関は、国リハ以外は、研究機関、教育機関、病院、企業、障害当事者団体、NPO 団体などで、すべてボランティア出展であり、北海道から岡山県まで、遠方からの出展にご協力いただいている。衣料製品に限らず、関連する研究や活動、おしゃれな杖や片麻痺の人向けの鞆などの商品、旅行・外出に関わるサービス関連など、幅広く紹介しており、

ここ 3 年は、リハ並木祭（国リハと国立職業リハビリテ

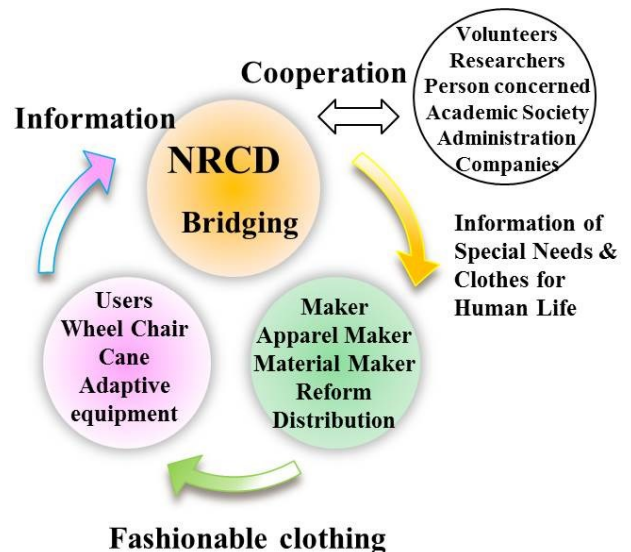


Fig. 2 The role of NRCD under the NRCD Fashion Event.

ーションセンターの合同の文化祭で（2015年度の来場者数1411名）で行っている。

ファッションショーの開催も、様々な方々にご協力いただき、衣服の作成やショーの運営実行に関わっていただいた方々、モデルとなっていたらいたる障害のある方々も趣旨に賛同頂きボランティアでご協力いただいた。



Fig.3 A robot was demonstrated at the NRCDFashion Event 2015. It is under development for research and development to evaluate clothing for wheelchair users, assistive products and so on.

2.3 ニーズ&アイデアフォーラム

医療・福祉系，デザイン系，工学系の学生が，混成チームを作り，福祉の課題でニーズを探り，その解決法を形にし，多くの人に展示・発表などを通じ知っていただくフォーラムである。2014年度から，AMEDの長寿・障害総合研究事業，障害者対策総合研究開発事業「支援機器イノベーション創出のための情報基盤構築に関する研究」の一環として行っている。

2014年度は4校，2015年度は8校が参加し，2016年度は前期4校，後期9校が参加予定（2016.7.1現在）である。医療・福祉系は，理学療法学，作業療法学，特別支援教育，デザイン系はデザイン学，デザイン科学，工学系は，機械工学，ロボット・メカトロニクス学，建築学，電子工学の専攻の学生等が参加している。

学生はほぼ月一回の割合で国リハに集まり，福祉機器の体験，施設見学，国リハの医療・福祉に関わっている職員や障害のある人の話を聞くことなどを行い，チーム毎に活動の進捗状況を発表し，各学校の先生や国リハの職員，および協力していただいている横浜市総合リハビリテーション

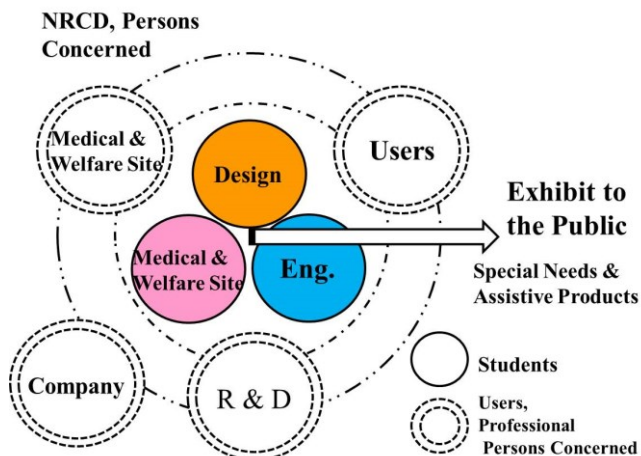


Fig. 4 Needs & Idea Project

ンセンターの職員からアドバイス等コメントをもらう。上記以外は，チーム毎に打合せや物作り活動を行う。

成果は，ニーズ&アイデアフォーラム（NIF）を開催し，成果展示を行い，特別講演，作品毎の学生発表とそれに対するゲストのコメント，学校毎に本プロジェクト活動の総括を一般公開している。後日，そのフォーラムの様子と合わせて結果をビジュアルな報告書（報告書も学生が作成）にまとめ，関係者や関心有る方々に無償配付している。

2015年度のNIFの様子をFig.5で紹介する。（報告書より）



Fig. 5 Atmosphere of Needs & Idea Forum 2015

3. 試行している中で浮かび上がった課題

三つの試みでは，テーマに関連する障害のある人が何らかの形で関わり，様々な専門家や立場の方々の協力で実施している。今までの活動を通じ，「お互いの当たり前を知る」ことの重要性を毎回感じた。NIFでも，学生混成チームでの活動開始当初はお互いの専門の言葉が通じず，スケジュール調整は大変であったが，異なる分野の学生との協働作業の経験は良かったと各学校から学生発表があった。

スケジュール調整，言葉の違いなどが課題で，趣旨に賛同される様々な専門家や立場の方々に如何にご協力いただけるかが課題である。

4. おわりに

紹介した活動は，よりよい福祉国家の土台となる人・物・ことの人材育成や開発促進につながる。複数の有識者や企業の方々に好評でもあり，可能な限り継続したいと考えている。これまで趣旨に賛同し，活動に尽力くださった方々に感謝するとともに，多くの方々の情報共有を促進し，実用的なもの・ことにつながることを期待する。

参考文献

- (1) 福祉工学カフェ
http://www.rehab.go.jp/ri/event/at_cafe2010/index.html
- (2) 国リハコレクション
<http://www.rehab.go.jp/ri/event/fashion/top.html>
- (3) ニーズ&アイデアフォーラム
<http://www.rehab.go.jp/ri/event/NIF/>